

教 育 計 画

1 教育課程の編成及び実施方針

各種法令、新学習指導要領第1章総則及び「令和3年度金沢市立小中学校における教育課程編成の基本方針」、「金沢スタンダード・ベーシックカリキュラム」等に基づき、本校の児童の実態と教育目標（「自己指導力の育成＝生きる力」）、教育方針、努力事項を加味して、学校独自の教育モデル（中央プラン）として編成する。金沢型学校教育モデルの推進に重点を置きながら、高岡中学校校区教科部会による共通理解事項も踏まえ、言語活動の充実、ユニバーサルデザインに視点を当てた学習指導に力を入れる。また、学期をおうごとに「基礎」「向上」「充実」した学習内容になるように教育課程を編成する。

（1）国語科

- ・基礎的、基本的な知識、技能が確実に習得できるよう、相手や目的意識、場面や状況意識を持って、基礎的・基本的な知識技能を活用する言語活動を工夫する。
- ・基本的な授業展開に書く活動を位置づけたり、ノート指導について学年や学校全体で系統的に取り組むなど、書く活動を中核に位置づける。
- ・児童にとって考える必要性・必然性が生まれよう学習活動を工夫したり、読書活動の充実を図ったりすることで、思考力、判断力、表現力を育成する。
- ・児童の学習意欲をふまえ、丁寧で具体的な指導を行うとともに、教師による評価、子どもの自己評価や相互評価を行い、学習内容の着実な定着を図る。

（2）社会科

- ・社会事象に関する基礎的、基本的な知識、概念や技能の確実な習得を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うようにする。
- ・学年段階を考慮した指導を計画的に行い統計資料や年表、地図などの資料を活用する知識や技能を身につけさせる。
- ・言語活動を充実し、調べたことや考えたことを表現させるとともに、問題解決的な学習を充実させることで、社会的な思考力や、判断力表現力を育成する。
- ・ノートやワークシートなどの成果物をB規準を設定して評価するなど学習評価の場面や方法を工夫し、学習内容の確実な定着を図る。

（3）算数科

- ・算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的基本的な知識及び技能を確実に習得させる。
- ・場面の意味を読み取り、数量関係を把握できるように系統的な指導を行い、算数的活動の楽しさや数理的な処理の良さに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。
- ・日常の事象から情報を読み取り問題解決のための情報を選択する活動を充実させ、数学的な思考力や判断力を育成する。また、言語活動を充実させ、表現力を育成する。
- ・言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いた表現の評価を工夫して行い、学習内容の確実な定着を図る。

（4）理科

- ・単元導入を工夫し、単元の見通しや単元を通す課題意識を持たせるようにする。
- ・事象や現象の中に自ら課題を見出し、自分なりの方法で追究し解決するという問題解決的な学習過程の中で「きまりや法則」を創り上げる学習活動を通して、確かな学びを身につけさせる。
- ・安全の確保を徹底した観察実験や科学的な体験を充実させることで、実感を伴った理解を図る。
- ・表現力としての数値化やグラフ、モデル図の作成などの理科的な言語力の育成を図り、分かったことを誰かに説明したり実生活の中で活用したりすることを大切にする。
- ・科学的な思考力、表現力をノートやイメージ図などの成果物で評価したり、子どもの自己評価や相互評価を行ったりすることで、学習内容の着実な定着を図る。

（5）生活科

- ・児童が、「～したい」と言う思いや願いを持てるような、地域に密着した学習素材や学習活動の工夫をし、生活上必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養うようにする。
- ・自分の考えや調べたことを安心して表現し合える場を設定し、思いや願いを実現できるような支援をすることで、気付きの質を高め、思考力、判断力、表現力を育成する。

(6) 音楽科

- ・「個人→グループ（アンサンブル）→学級→学校」への音楽的高まりと、「歌唱、器楽、創作、鑑賞、読譜、感覚」の6つの視点で「中央サウンド」を目指す。
- ・自分の思いや意図が伝わるような表現をするために、表現の仕方を工夫したり、必要な技能を身につけようとしたり、問題解決に向けて取り組める導入や単元構成を工夫する。
- ・表現と鑑賞の関連を図り、児童の興味関心や実態を把握しながら教材を選定し、題材を設定する。

(7) 図画工作科

- ・基礎的基本的な知識、技能の習得を図るとともに、自分の思いをしっかりと持ち、自分らしさを追求する製作活動ができる子を育成する。
- ・友達との関わり合いの中で自他の作品を評価し合い、多様な表現方法に気付かせるとともに、思考力・判断力・表現力を育成する。

(8) 家庭科

- ・日常生活の中に課題を発見し、実践的・体験的活動を重視した問題解決的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を育成する。
- ・家庭生活を大切にしている心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

(9) 体育科

- ・仲間と一緒に動きを作ることを学習内容に取り入れる。運動の取り上げ方を弾力化し、重点単元と経験単元を使い分ける。各学年で経験させ、身に付けさせたい技を示し、体作りや動き作りの積み重ねを確かなものとする。
- ・各学年に応じた十分な運動量が確保できるように、1時間の展開を工夫する。
- ・金沢市健康教育推進プランと連携を図り、3年生以上の保健領域を充実させる。

(10) 英語科

- ・英語でのコミュニケーション体験を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの基礎的・基本的な知識及び技能を養う。
- ・デモンストレーションを通して子どもと課題を設定したり、知的好奇心を喚起する事柄を題材化したりすることで、英語学習に対する意欲を喚起する。
- ・既習表現を活用する必然性のある場面を設定することで、英語によるコミュニケーションについての思考力や判断力、表現力を育成する。
- ・モニタリング、学習履歴を活用した子どもの自己評価など、工夫した学習評価により、学習内容の着実な定着を図る。

(11) 特別の教科「道徳」

学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。特に親切、思いやりを学校全体の重点目標とし、特色ある教育活動を展開する。

(12) 特別活動

望ましい集団活動を通して、心身の調和の取れた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、自治的な態度を育てるとともに、自らが企画したボランティア活動を実施するなど、子どもが自らの思いや願いを自ら実現できるような実践的な力を養う。また、学校教育全体との関連を図り、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する。

(13) 総合的な学習の時間 <教科との関連の中で、地域と関わり、持続可能な社会作りの担い手としての基礎を創る中央小総合的学習>

中央校区（地域）・人・社会・自然と関わり、そのよさに気づき、よさを見つめなおし、そのよさや自分を見つめなおす学習を通して、自ら考え判断し行動する力と豊かな心を育む。

さらに、その実践を金沢「絆」教育やユネスコスクールの取り組みとリンクさせ、地球環境の保全や伝統文化の継承発展など、持続可能な社会作りの担い手を育成する持続発展教育（ESD）として指導していく。ユネスコスクールの取組は「金沢SDGs」の視点で点検・再評価した。

